

漂着軽石の農業利用を考えている皆様へ

11月26日 沖縄県農林水産部

令和3年8月に発生した小笠原諸島・福德岡ノ場の海底火山噴火に由来するとみられる軽石の漂着が、10月以降、県内の漁協・港湾施設、海岸等で確認され、離島住民生活や、漁業・観光業等へ重大な影響を及ぼしており、沖縄県では全庁体制で除去作業等の対策にあたっているところであります。

一方で、軽石の漂着以降、県民の皆様から、農業利用についての問い合わせが多数あることから、現時点における情報をもとに、下記の留意点について整理しました。

沖縄県としましては、引き続き、軽石の鉱物組成等を含めた詳細分析や土壌、作物生育への影響等のモニタリング試験、採取箇所の追加など、知見の集積を進めながら、農業利用の検討および情報発信に取り組んでまいります。

【主な留意点】

- 軽石の予備分析(EC(電気伝導度))において、高い塩類濃度が認められることから、現時点では、土壌改良を目的とした農地への投入や利用は塩類集積による生育障害の懸念があるため、推奨しません。
- 利活用にあたって屋外等に野積みする場合、溶脱した塩類が悪影響を及ぼす懸念があることから、農地および農地周辺への野積みについては推奨しません。
- 園芸用軽石などの個人利用については、上記事項に留意の上、利用をお願い致します。

<参考>

※現時点では、1箇所のサンプルを用いた予備分析であり、あくまで参考値であることに留意すること。

今後、採取箇所の追加等、サンプル数を増やし性質を特定していく予定。

EC	5.65 mS/cm
pH	8.6 (アルカリ性)

※サンプリング後 未処理

○EC(電気伝導度)が5.65mS/cmと高い塩分濃度であることから、十分な除塩がなされないまま、農業利用された場合、土壤中EC(適正範囲:0.1~0.8mS/cm程度)の上昇により、作物の生育障害を引き起こすことが懸念されます。

○pHが8.6とアルカリ性を示していますが、当該性質が海水(pH8.1程度)に由来するものなのか、鉱物組成由来なのか現時点で明らかでないことから、pH改善を目的とした利用についても注意が必要であると考えられます。

○農業利用にあたっては、

- ①詳細分析(鉱物組成、採取箇所追加等)による成分特定
- ②除塩方法の検討や、塩分濃度の経時変化の確認
- ③投入による土壌や作物への影響(モニタリング)

など、中長期的な検証を行う必要があると考えており、沖縄県では、引き続き、関係機関で連携しながら取り組んでまいります。